

SHIRAKOBATO

しらこぼと



2002. 10

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 222

日本野鳥の会 埼玉県支部

東京圏（東京駅から50km圏）の

カラスのねぐらを探してください

日本野鳥の会東京支部 川内 博（和光市在住）

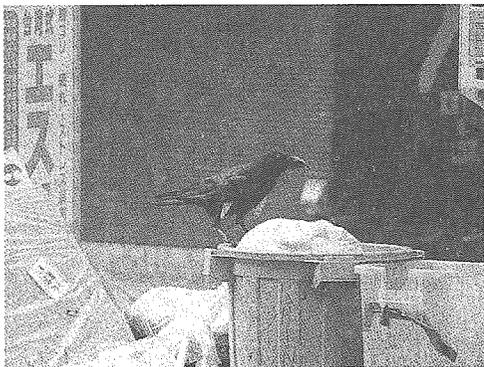
1. 東京都の『カラス問題』対策

東京の市街地を中心に、多数のカラスの「生ごみ（ゴミ）を食い荒らす」「人を威嚇する」「小動物を襲う」といった行為が社会的な問題となり、いわゆる『カラス問題』として、首都圏の市街地（とうきょう）で話題になって10年以上になります。

この問題について、東京支部では1999年より「カラス・シンポジウム」を開いて、行政や住民によるゴミ対策を中心とした解決策を提言しています。しかし、当事者の東京都はゴミ対策の重要性は認めながらも、実質行っている施策は、繁殖期に威嚇する個体の巣を撤去する「巣落とし」と、都内100箇所くらいに大型の捕獲檻を設置し、餌とおとりを使って捕獲する「トラップ作戦」だけです。

2. 「巣落とし」と「トラップ作戦」の費用

「巣落とし」については市民生活に支障が生じることもあり、緊急処置として理解できる面もありますが、「トラップ作戦」は、この方法ではいくら捕まえても、食糧源（ゴミの放置）がそのままであればカラスは減らないということは明白です。都の説明は、『ゴミ対策をした上で、1羽でも捕まえれば減る』の一点張りです。それに対し東京支部では、トラップにかかるようなカラスは自然死する可能性の高い若い個体なので、税金の無



自然教育園でマーキングされたハシブトガラス

駄遣いだとレクチャーしてきています。

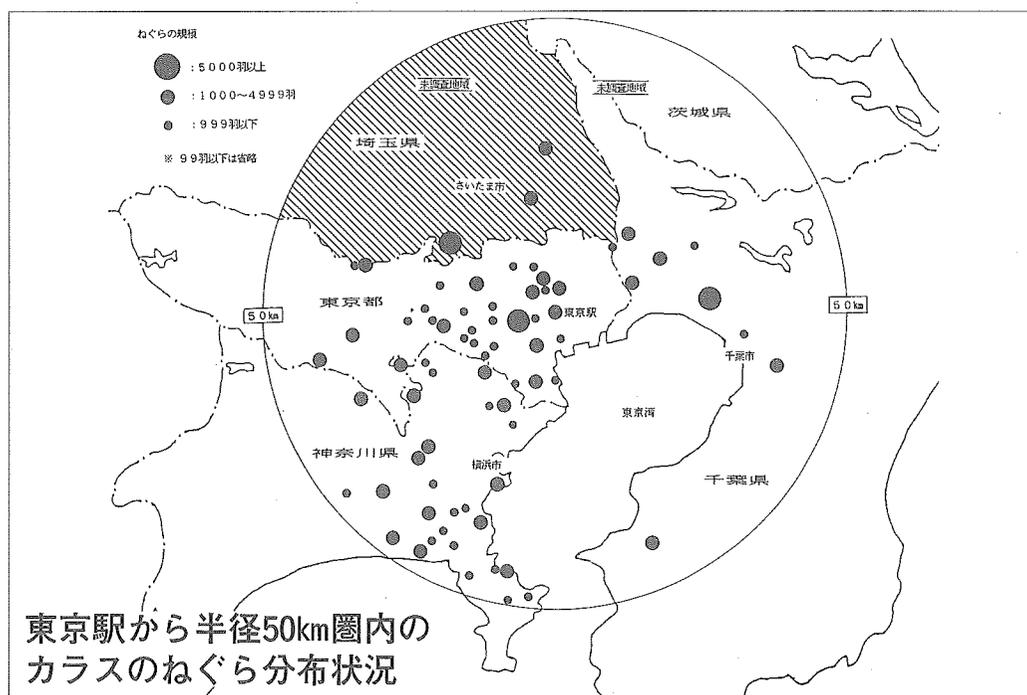
前者の方法は1巣処理するのに約4万円かかり、一昨年度5百万円、昨年度2千万円、今年度は1.7千万円の費用を計上しています。また、後者の方法には昨年度4千万円をかけて、4,000羽余を捕獲したと発表しています。こちらはカラス単価が1万円ということになります。さらに、これらの方法は単にお金の問題だけでなく、人間側の不手際でトラブルを発生させていながら、その責任をカラスだけに負わせるということや、野生生物を自分（人間）の都合だけで殺していいのかという倫理的な面でも問題が多いとして、東京支部では当初から実施反対を表明しています。

3. 始まった「個体数調査」

上記の事例でおわかりのように、東京都の「カラス対策」は根本的な解決策にはなり得ません。そこで支部研究部では、現地調査をしたり、文献からデータを得たりして、ねぐら場所とおおよその数をまとめました。それが呼び水となって、昨冬、個体数把握のために、都による初めて「カラスのねぐら調査」が実施され、43箇所、約37,000羽という公式のデータが得られました。カラスの個体数調査は、人間社会における住民基本台帳にあたるもので、まず正しいカラス人口を押さえた上で、さまざまな施策が始まるというのを従来から主張してきましたので、この調査は野鳥の会研究センターが請け負い、東京支部も協力しました。この数字を基に、今後のさまざまな対策の効果を測ることができるというわけです。

4. 東京圏のねぐら調査の意義

ところで、行政には「埼玉県」「東京都」という明確な区切りがあり、担当者は、一般的にそれぞれの単位で物事を考えます。しかし、カラスには強力な翼があり、自然教育園



の「タグ付きカラスの行動圏」調査結果などをみると、10km程度の移動は簡単と思われる。ねぐらは埼玉県で餌場は東京都という『埼玉都民カラス』の存在が考えられ、実際、荒川や多摩川を越えて移動する個体も多数見られています。

そこで、2年前から、東京支部では『東京駅から半径50kmの範囲』（東京圏）でのカラスのねぐら調査を首都圏一帯の野鳥の会の支部や自然関係の団体に呼びかけています（本誌197号参照）。タイミングよく、一昨年は神奈川県で、昨年は東京都で、全域の調査が行われ、また、昨冬は千葉県野鳥の会が、県下8箇所でのねぐら調査を実施しました。それに、現時点までに得られた埼玉県下での4箇所のねぐら（新座市平林寺、所沢市狭山湖、川口市グリーンセンター、越谷市久伊豆神社）を地図上にプロットして地図ができました。

この地図をご覧になると、カラスのねぐらが首都圏にまんべんなく分布していて、行政単位では対応しきれないということが一目瞭然だと思います（実際、この地図を見たある都のカラス担当者は、従来のカラス対策の不備に気づいたと発言をしています）。

この調査は3年計画で実施しているもので、この冬が最終年となります。現時点では埼玉県や千葉県、一部茨城県の多くで未調査ですので、この冬見当だけでもつけられるような形にしたいと思っています。調査結果や情報をお寄せ下さい（編集子は、「埼玉県の特に斜線の地域の情報が不足している」と伺いました）。

5. 調査要領

- (1) 場所：東京駅から半径50km圏
- (2) 期間：2003年2月末まで
- (3) 調査事項：
 - ねぐらの正確な場所
 - ねぐら入りした個体数（おおよそでも結構です）
 - できれば種類の割合も

【連絡先】

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-18-16
 新宿伊藤ビル3F
 日本野鳥の会東京支部・研究部
 TEL 03-5273-5141/FAX 03-5273-5142
 詳しいお問い合わせは

E-mail: にお願
 いします。

「カラスの集団時の個体数調査」の経験から

山部 直喜 (三郷市)

今月号の特集は2頁、3頁の通りです。読まれて「よし、やってみよう」と思われた方も多いと思います。しかし、その調査方法が分からないため、または経験がないために二の足を踏まれるのも事実でしょう。

そこで、私の経験を披露することで、それらを払拭したいと思います。

まず参加した方の感想をまとめると、

- ・ 楽しかった、途中から夢中になった。
- ・ またやりたい、だれでもできる。
- ・ 地域の環境を考える上でもこのような調査は大切だ。

でした。実はこの調査は、支部の活動ではなく、地域の市民活動の一つである「越谷市ふるさといきもの調査」の一環として行ったものです。したがって、鳥にはまったくの初心者の方もいます。

実施したのは昨年の12月2日(16:00~17:00)と同月16日(13:30~17:00)。時の場所は越谷市の久伊豆神社。そこを取り囲むように、P1~P5地点にそれぞれ2人から5人を配置して、分担した区域を通過して出入りするカラスの数をかぞえました。時入り

する数を十で、時より出ていく数を一で、時刻を10分ごとに区切った用紙に記入します。それらを後で集計し、就時個体数(X)を下記のように推定します。

$$X = A + (B - C) + D$$

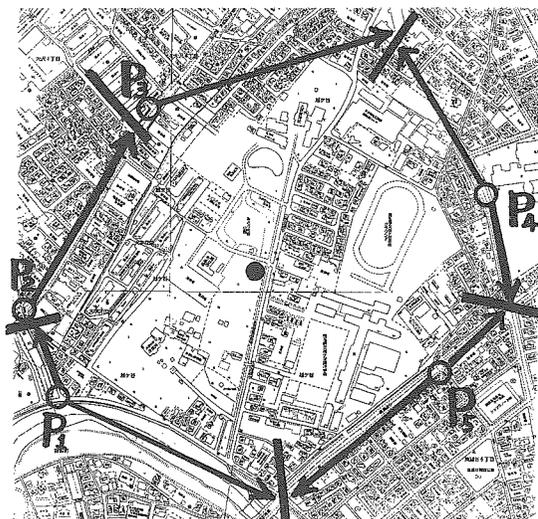
- A: 調査開始時点の個体数(調査を開始する直前に調べた数値)
- B: 時に入った個体数
- C: 時から出た個体数
- D: 見落とし数(建物や樹木の陰に入ったり、気象条件等によるカウント漏れの数を推定したもの)

2回の調査ともDは実施していません。またこの方法は、都市鳥研究会の方法(『URBAN BIRDS』1996.8)を踏襲しました。

準備したものは、集計用紙、筆記道具、地図、観察場所の写真、(方位磁石)、時計、双眼鏡、数取器、防寒具等でした。

身近な地域を知ることとはとても楽しいことです。今冬も実施する予定です。興味のある方は山部に電話をください。

「調査はちょっと…」という方は、時の位置だけでも東京支部や山部に連絡ください。



コガラバゴスフィンチ

分類 スズメ目ホオジロ科
ガラバゴスフィンチ属
英名 Small Ground-finch
学名 *Geospiza fuliginosa*

南米エクアドルの西、1000kmの沖に位置するガラバゴス諸島。そこに生息するフィンチ類の変移を見て、ダーウインの進化論が生まれたという話はあまりにも有名。

13種に分類されている。今年8月の短い旅では、その内8種に会えた。

空港に降り立つとすぐに最初の出会い、看板の上にとまっていたサボテンフィンチ(Common Cactus-finch)。ホテルの庭で巣材集めをしていたガラバゴスフィンチ(Medium Ground-finch)。少し離れた地上で大きな草の実をくわえようとしていたオオガラバゴスフィンチ(Large Ground-finch)。てっきりムシクイ類の鳥だろうと思っていたムシクイフィンチ(Warbler finch)。標高の高い森林の中で、本当に楊枝のように小枝をくわえていたキツツキフィンチ(Woodpecker finch)。枝から枝に忙しかったコダーウインフィンチ(Small Tree-finch)とハシブトダーウインフィンチ(Vegetarian finch)。

いずれも人を恐れないで、人と鳥の距離は大変近いが、ムシクイフィンチやキツツキフィンチなど特徴的なものを除いて、識別は難しい。私は片っ端からビデオで撮影し、ガイドに見せて同定してもらい、少しずつ覚えた。

表紙のコガラバゴスフィンチは、ダーウイン研究所の敷地内で。

ガラバゴスアメリカグンカンドリ

分類 ペリカン目グンカンドリ科
グンカンドリ属
英名 Galapagos Magnificent Frigatebird
学名 *Fregate magnificence magnificens*

アメリカグンカンドリのガラバゴス固有亜種。

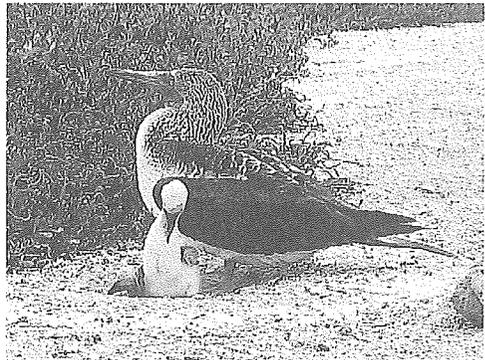
アオアシカツオドリとアメリカグンカンド



リのコロニーが隣接していた。グンカンドリは、魚を飲み込んできたカツオドリを執拗に追いまわし、あるいは雛に与えようとするところを急襲し、魚を奪い取っていた。

オスの求愛行動は派手。のどにある赤い袋に空気を送って膨らませ、頭上を飛ぶメスにアピールする。空気をたっぷり送って膨らませるのに10分間もかかるという。赤いのどを膨らませたまま飛んでいるオスもいる。

生息数2,000羽。



ガラバゴスアオアシカツオドリ

分類 ペリカン目カツオドリ科
カツオドリ属
英名 Galapagos Blue-footed Booby
学名 *Sula nebouxii excisa*

アオアシカツオドリのガラバゴス固有亜種。ガラバゴスの鳥は、渡りで来るシギ・チドリ類を除いて、ほとんど固有種または固有亜種。

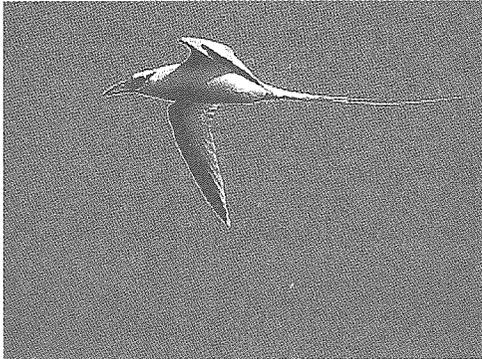
ガラバゴス諸島のシンボルの存在の鳥。コロニーのある島に上陸すると、ごく一部に細

い観察路が設けられているが、その観察路の中にも営巣してしまう。それをよけながら歩かなければならない。

数羽でいっせいにダイビングする魚とりはダイナミック。青く目立つ足を交互に上げる求愛ダンスはなんとも楽しい。

町の土産物店に、求愛ダンスをしている足だけをデザインしたTシャツがあった。

生息数 20,000 羽以上。



ガラパゴスアカハシネッタイチョウ
分類 ペリカン目ネッタイチョウ科

ネッタイチョウ属

英名 Galapagos Red-billed Tropicbird

学名 *Pheathon aethereus limatus*

これもアカハシネッタイチョウのガラパゴス固有亜種。世界のネッタイチョウ属は、アカオネッタイチョウ、シラオネッタイチョウとアカハシネッタイチョウの3種。アカハシネッタイチョウはさらに4亜種に分類される。

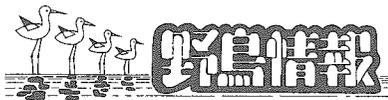
断崖絶壁に営巣。走る船の上から、遠くの島をバックに飛び優雅な白い姿に喜んでいたら、一羽が突然近づいてきて、頭上を飛んで行った。

尾羽の長さは40cmにもなる。「熱帯の貴婦人」と呼ぶにふさわしいが、オスも貴婦人？

ガラパゴスで足輪をつけられた個体が、ペルーとパナマで確認されたことがあるので、遠距離の渡りをすることもあるようだが、グループによっては渡りをするのかどうなのか、生態はまだよくわかっていない。

生息数 4,000 羽~6,000 羽。

(文と写真・海老原美夫)



坂戸市入西 ◇8月5日午前7時47分、チョウゲンボウ♂1羽、西清掃センター煙突の時計の針にとまっていた。見ていると針から飛び立って、空中で小鳥をキャッチ。鉄塔上で朝の食。8月7日には、低空を「キッキキキ」と鳴きながら飛んできて目の前の電柱に2羽がとまる。その後、鉄塔上に移り、暫くして1羽が草原に急降下、地上での狩りに成功した。ここは、チョウゲンボウ、ノスリ、

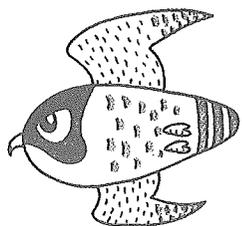
ハヤブサ等ハンター達の観察おすすめスポット (増尾隆)。

さいたま市大原中学校 ◇8月29日午後4時頃、グランド南側の電線でシラコバト1羽(志賀敢)。

さいたま市秋ヶ瀬 ◇8月30日、秋ヶ瀬取水堰北側300mのアシ原と刈り取った田んぼの間を走る道路上でキジ幼鳥♂1羽、遠くから見た時は、カラスと思ったけれど、車で近づいても飛び立たない。尾が長い? さらに近づくと顔が真っ赤! 全体が緑がかった黒だと分った (志賀敢)。



行事あんない



(何森 要)

「要予約」と記載してあるもの以外は、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。参加費は、一般 100 円、会員と中学生以下は 50 円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。もしあれば、双眼鏡などの観察用具も（なくても大丈夫）。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後 1 時頃。悪天候のときは中止。小雨決行。できるだけ電車バスなどを使って、指定の集場所までお出でください。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：10月6日（日）

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR 高崎線北本駅西口アイメガネ前から北里メディカルセンター病院行きバス 8:40 発にて「自然観察公園前」下車。

担当：岡安、大坂、内藤、立岩、永野（安）、永野（京）、山野、樋口

見どころ：富士山に初冠雪を見るころ、爛酒が恋しくなる季節です。適温は 40 度前後で鳥の体温とほぼ同じ。「サンズイにトリ」の意味はそういうこと？ 里山の渡り鳥と留鳥、それに草花があなたを待っています。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

<差間コース>

期日：10月6日（日）

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR 浦和駅西口バス 1 番乗り場から、大崎園芸植物園行き 8:31 発、または東川口駅北口行き 8:39 発に乘車、「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤（芳）、工藤、吉岡（洋）、若林、新井（勇）、土澤、石田

見どころ：身近な探鳥地の差間で渡り途中の鳥たちを探して見ましょう。ふだん見

ることのできない鳥たちに出会えるチャンスです。冬鳥、カモの第一陣も到着してにぎわいも増していきます。民家園でお待ちしています。

さいたま市・秋ヶ瀬大久保農耕地探鳥会

期日：10月6日（日）

集合：午前8時、JR 浦和駅西口バスロータリー、集合後バスで現地（やつしまニュータウン）へ。

担当：福井、楠見、小林、海老原、倉林、森（秀）、百瀬、渡辺（嘉）

見どころ：「ムシムシの夏がやっとと去っていった。ムシの秋、冬鳥の季節になったよ」と、農耕地を渡る風が私にささやいている。秩父の山々が近くに見えてきて、シギやチドリには別れの季節になる。クイが残らぬよう見に来てください。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：10月13日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。
交通：秩父鉄道熊谷 9:11 発、または寄居 8:49 発に乘車。

担当：榎本（秀）、森本、中里、後藤、島田、和田、倉崎、高橋、大澤、藤田、栗原

見どころ：冬鳥の到来に心ときめく季節となりました。ツグミやジョウビタキの初

認なるか……。あなたの小さい秋を見つけてください。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：10月19日（土）午後1時～2時ころ
会場：支部事務局108号室
ご案内：『野鳥』誌と同封発送するようになって『しらこぼと』だけの袋づめ作業はだいぶ楽になりました。のんびりおしゃべりしながら作業を終えて、誰かのへたくそビデオでもひやかしてみませんか。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：10月20日（日）
集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。
後援：さいたま市立浦和博物館
担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺（周）、若林、兼元、森（力）、小菅、新部
見どころ：今年の夏は暑かったので、いい秋が迎えられそう。鳥たちも、木々も、草花も見沼たんぼの自然で楽しもう。鳥仲間だけでなく、見沼たんぼで生活をする人々、見沼たんぼを好きな人々、皆友達になろう。そんな気持ちを持ってお出かけください。

長野県・戸隠高原探鳥会（要予約）

期日：10月26日（土）～10月27日（日）
若干名の空きがあります。本誌9月号参照。

行田市・さきたま古墳公園探鳥会

期日：10月27日（日）
集合：午前9時30分、県立さきたま資料館前レストハウス。
交通：JR高崎線吹上駅北口から、朝日バス行田車庫（佐間経由）行き8：52発にて、「産業道路」下車、徒歩約15分。
担当：内藤、岡安、和田、立岩、石井（博）、

栗原

見どころ：「秋風、いきたい方へ行けるところまで」（山頭火）。風にのり、行きたいところに行ってみたい季節ですね。冬鳥たちの登場です。身近で見られるきれいな鳥、ジョウビタキが姿を見せるのもちょうどこの時季ですね。

川越市・西川越探鳥会

期日：10月27日（日）
集合：午前9時10分、JR川越線西川越駅前。
交通：JR川越線大宮8：36→川越にて8：57発に乗り継ぎ乗車。
担当：佐久間、長谷部、山本（真）、中村（祐）、池永、山本（義）、山田
見どころ：秋も日ごとに深まってきています。ここにも鳥たちが北の国からやってきます。どんな鳥たちが見られるでしょうか。常連のサギ、モズ、カワセミなども待っていますよ。

北川辺町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：10月27日（日）
集合：午前8時15分、東武日光線柳生駅前、または午前8時30分、中央エントランス駐車場。
交通：東武日光線新越谷7：15→春日部7：29→栗橋7：54→柳生8：04着。またはJR宇都宮線大宮7：08→栗橋7：43着にて、東武日光線乗り換え。
担当：橋口、玉井、内田、田邊、中里、田村、伊藤（隆）、宮下、四分一
見どころ：いよいよ谷中湖にもシベリヤからカモが到着します。湖を回り、谷中村史跡の林で冬の鳥も探します。昼食を忘れないで持参ください。今年から回数を一つ増やし、10月から来年4月までの偶数月に実施いたしますのでご期待ください。

長野県・白馬山麓探鳥会（要予約）

期日：11月2日（土）～11月3日（日）

集合：2日午前9時15分、JR
長野駅西口（善光寺口）
駅前広場。

交通：長野新幹線「あさま
551号」（東京7：00
→大宮7：26→熊谷
7：40→高崎7：54→
長野8：50着）、
または
「あさま1号」（東京
7：32→大宮7：56
→長野8：57着）

費用：10,000円の予定（1
泊3食、現地バス代、
保険料など）。万一過
不足の場合は当日清算。
集合地までの往復交通
費は各自負担。

定員：20名（先着順、支部会員優先）
申し込み：往復はがきに住所、氏名、年齢、
性別、生年月日、電話番号、を明記し
て、小池一男
まで。

担当：小池（一）、小池（順）、岡安
見どころ：今年はコースを一新、このコース
なら冬鳥を十分堪能できるはずと「一
歩」マスターが太鼓腹をド〜ン。白馬
連山のモルゲンロート&温泉のオブシ
ョンはもちろんあります。「白馬の大
自然丸ごとウォッチング、秋のリニ
ューアル版」をお楽しみください。

ご注意：◆1日目の昼食は持参のこと。ハイ
キングのできる足拵えで、雨具、防寒
具も必ず持参してください。

◆宿泊は男女別の相部屋です。個室
の用意はできません。

5月12-13日の白馬探鳥会では
新井 浩（さいたま市）

前日の雨の心配もなく、オーナーのマイク
ロバスで長野駅を出発、居谷里湿原へ。リー
ダー小池さんの「上を見て下を見る」の指導
のもと、クロジ、珍しいワダソウなどを教え
てもらい湿地を一巡、定隣寺にて昼食。



食後、寺の裏山散策でクズの花を見、みそ
らの田圃、柳林に寄り、姫川ダム、矢崎湖、
青木湖を経て宿舎「一步」に。

懇親会を兼ねた夕食に、皆和気藹々の時を
過ごす。

明けて早朝、落倉林道〜楠川林道探鳥、朝
食後、浅間山林遺を経て、姫川源流、親海湿
原を探鳥し、今回の探鳥会を終了。

当探鳥会は車による移動で、歩く距離が少
ないので、次回は足に自信がない方も参加さ
れ、山麓の探鳥を楽しまれたらと思った。

第5回カラス・シンポジウム
「とうきょうのカラスと共存するには」

日時：2002年11月10日（日）
午後1時〜5時

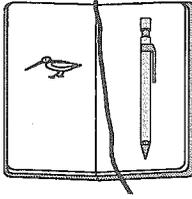
場所：立教大学（東京・池袋）

定員：150名（先着順）

資料代：1,000円

詳しくは、東京支部（TEL 03-5273-5141）に
お問い合わせ下さい。

カラス問題についての学校教育・社会教
育・広報・普及などに関するもので、一連の
流れのまとめ的な役割の集会となります。



行事報告

4月7日(日) 北本市 石戸宿

参加: 39人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ マガモ カルガモ コガモ オオタカ コジュケイ キジ クイナ バン キジバト アカゲラ コゲラ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 例年に比べて桜の開花が早いようだ。お目当ての桜はすべて散り、ウワミズザクラだけが咲いていた。ただ、ウグイスのさえずりはあちこちで聞かれた。南幼稚園の台地でアカゲラをじっくり見たあとで、あずまやの近くでは上空を帆翔するオオタカと湿地のクイナを堪能することができた。東光寺のさくら祭り見物のおまけつきだった。(岡安征也)

4月29日(月、休) 春日部市 内牧公園

参加: 49人 天気: 晴

コサギ カルガモ オオタカ サシバ コジュケイ ムナグロ キジバト コゲラ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ アカハラ ツグミ ウグイス キビタキ ヤマガラ シジュウカラ メジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (26種) 開始直前、上空にオオタカとサシバが現れ、みんなで見入る。雑木林でキビタキみが出たとのことで探す、一部の人が見ただけ。期待のツミは、残念ながら来なかったようだ。ところが、これを埋め合わせするかのように、ここ3年観察できなかったムナグロを見つけ、みんなで見入る。また、くちばしと足指が婚姻色になったコサギがドジョウを捕まえて飲み込むのを見る。夏を思わせる暑い陽気だったが、満足できた。(吉安一彦)

5月6日(月、休) 蓮田市 黒浜沼

参加: 74人 天気: 晴

カイツブリ カワウ アマサギ チュウサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ チョウゲンボウ コジュケイ キジ バン ムナグロ キョウジョシギ チュウシャクシギ コアジサシ キジバト カワセミ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 立夏にふさわしい天候に恵まれ、お目当てのムナグロは各所に出してくれた。加えて、チュウシャクシギ、コアジサシ、アマサギも出てくれ、全員が見られたと思う。74名の多数の参加をいただき、無事故に終わったことを参加者の皆さんに感謝。(田中幸男)

5月11~12日(土~日) 長野県 白馬山麓

参加: 24人 天気: 小雨後晴

カイツブリ アオサギ マガモ カルガモ コガモ キンクロハジロ ハチクマ トビ オオタカ ノスリ キジバト ホトトギス フクロウ アマツバメ アオゲラ アカゲラ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ サンショウクイ ヒヨドリ モズ カワガラス ミソサザイ コルリ マミジロ クロツグミ ヤブサメ ウグイス オオヨシキリ メボソムシクイ エゾムシクイ センダイムシクイ キビタキ オオルリ コサメビタキ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ メジロ ホオジロ ノジコ アオジ クロジ カワラヒワ イカル シメ ニュウナイ スズメ スズメ コムクドリ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (61種) 季節の移り変わりが少し早いようだが、居谷里湿原ではいつものように多数のスミレのお出迎え。ノジコ、オオルリもさえずっていた。早朝の霧の中、マミジロの声。探鳥会では初めてだ。久しぶりの猿倉では雪形を観察。ギフチョウにも出会えた。白馬の大自然を満喫した2日間だった。(小池一男)

5月12日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 35人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ コハクチョウ マガモ カルガモ ヒドリガモ オナガガモ トビ オオタカ チョウゲンボウ コジュケイ キジ バン オオバン コチドリ キアシシギ キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ウグイス セッカ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 大麻生の探鳥会は今回で190回目。100回目の日(1994年5月8日)が、ふと思い出されて懐かしい。SLを見送ったり、居残りのカモやハクチョウを見つけたりしながら、五月晴れの下、今回も明戸堰までのんびり歩いて探鳥会は終了。200回到達がまた一歩近くなった。(榎本秀和)

5月18日(土)『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 16人

伊藤泰一郎、江浪功、海老原教子、大坂幸男、尾崎甲四郎、倉林宗太郎、島田恵司、島田沙織里、島田貴子、志村佐治、田中幸男、納谷美月、原田譲、藤野富代、松村禎夫、百瀬修

5月18~19日(土~日)長野県 戸隠・飯綱高原

参加: 22人 天気: 両日とも曇時々雨

カイツブリ アオサギ カルガモ トビ ツミキジ キジバト ジュウイチ カッコウ ツツドリ ホトトギス アオゲラ アカゲラ コゲラ ツバメ イワツバメ キセキレイ サンショウクイ ヒヨドリ モズ ミソサザイ コルリ マミジロ クロツグミ アカハラ ウグイス オオヨシキリ メボソムシクイ センダイムシクイ キクイタダキ キビタキ オオルリ コサメビタキ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ メジロ ホオジロ ノジコ アオジ クロジ カワラヒワ イカル ニュウナイスズメ スズメ コムクドリ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (53種) 長野駅ではどんよりと曇っていたが、幸い雨は上がっていた。バスで戸隠に向かうと、時々雨がぱらつくので、予定を変更してバス中心で行動した。大谷地ではいつものようにオオヨシキリ。まだアシもほとんど伸びていないのでリュウキンカが目立つ。まだ、ミズバショウも残っていた。一の鳥

居の東屋で昼食。カラ類やアカゲラを見る。翌日の天気も心配なので、植物園も回ってクロツグミ、キビタキ等もゲット。翌朝は3時起床。雨も上がっており、予定どおり越水ヶ原へ。今年のおオジシギは活動が鈍く、ディスプレイは見られなかった。植物園では時々薄日も射す。トケン類はなかなか姿が見られないが、サンショウクイは梢を飛び回っているのがよく見られた。ようやくコルリを見ることもでき、一安心。キャンプ場での昼食までどうにか天気も持ってくれ、冷えた体も味噌汁で温まり、奥田旅館さんに感謝。(菱沼一充)



5月19日(日) さいたま市 三室地区

参加: 76人 天気: 晴

カワウ アオサギ カルガモ オオタカ チョウゲンボウ キジ コチドリ キジバト カッコウ カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシブトガラス ハシボソガラス (26種) 五月晴れ。なんだか嬉しくなるような季節だ。青草の匂いがして気持ちがいい。鳥たちも子育てに忙しい時なのだ。オオヨシキリがひとしきり鳴いている。芝川の小さな木の枝にカワセミがゆっくり。キジの声が聴こえると空にはオオタカ、チョウゲンボウが飛翔。遠くカッコウの声が。やっぱり探鳥会に合わせてカッコウがやって来た。出現した鳥は少なかったが、大満足の探鳥会だった。(楠見邦博)

6月15日(土)『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 10人

新井浩、伊藤泰一郎、尾崎甲四郎、佐久間博文、島田恵司、島田沙織里、島田貴子、藤掛保司、藤野富代、松村禎夫

連絡帳

●表紙写真・カット写真・イラストのお願い

いつも品薄状態、常時募集中です。悩みの種は「季節感のずれ」。例えば10月に撮影した写真をすぐにお送りいただいても、11月第一土曜日の編集会議で検討、掲載されるのは12月号です。2ヵ月のずれが生じます。撮影から少し日にちをおくと、すぐに3ヵ月のずれになってしまいます。冬のカモの写真が、初夏になってから送られてくることもあります。それでも良いのかもしれませんが、できれば発行月の季節感を大切にしていきたいというのが、私たち編集部の方針です。

なるべく早く、とご配慮いただく一方で、「次の『しらこぼと』は11月号。ええと、去年の11月には、どんな写真撮ったっけ」と振り返っていただくという方法もあると思います。

写真の1枚1枚の裏には撮影者・撮影場所・撮影月日などのメモをお願いします。封筒の中に何枚かまとめて入れてお送りいただくと、各欄担当者がそれぞれカットに使う写真を見ているうちに、どの封筒から出したのか、わからなくなってしまう場合があります。

極端な例として、この写真良いんだけど、誰の写真かわからなくなってしまった、ということでも掲載できなかったこともあります。もちろん編集部としてそんなことではいけないのですが、1枚1枚にメモ書きしていただくと、大変助かります。

表紙の写真として御応募いただく時は、40字×5行程度のコメントもお願いします。申し訳ないのですが、その場合でも、カットの方にまわすこともあります。おゆるください。

●探鳥会での『しらこぼと』配布について

普及のために、会員以外にも配布していますが、会員の手元に届く前に配布してしまうと会員としての利益が損なわれるし、要予約探鳥会

の申し込みで不公平を生じるおそれもあります。最新号は、袋づめの日の1週間後から配布を始めることに、役員会で申し合わせました。

●ごめんなさいコーナー

前号7ページ「桶川市井戸木3丁目」は、「上尾市井戸木3丁目」の誤りでした。

●10月の事務局 土曜と日曜の予定

5日(土) 11月号編集作業。研究部会議。普及部会議。

12日(土) 11月号校正。

19日(土) 11月号袋づめの会。

20日(日) 役員会。

●会員数は

9月1日現在2,651人です。

活動報告

7月26日(金) 寄附行為等検討審議会、8月9日(金) 常務会に、本部監事として出席(海老原美夫)。

8月10日(土) 校正作業(海老原美夫、大坂幸男、藤掛保司、山田義郎)。

8月13日(火) 事務局システム等検討審議会に、本部理事として出席(楠見邦博)。

8月18日(日) 役員会議(司会:藤掛保司、各部の報告・関東ブロック協議会出席者・リーダー研修会の内容・行事案内の追加と変更・その他)。

8月19日(月) 支部報のみの会員宛て9月号発送(海老原美夫)。

編集後記

今年の夏は暑かった。人間長くやっているけど、こんなに暑い日が続いたのは、初めてのよ様な気がする。今日はやっと涼しくなって、汗をぬぐうことなく編集会議にこのこ。皆さんと久しぶりの顔合わせでした。(内藤)

しらこぼと 2002年10月号(第222号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130

〒336-0012 さいたま市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>

編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階

(財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。印刷 関東図書株式会社